

CAPTER 4

ウェブページの書き方2

本章では、前章に引き続いてウェブページの書き方を説明します。前章に比べて細かい事柄が多くなるので、本書を初めて読む際や、とりあえずウェブアプリの全体像を把握したい場合には、本章は飛ばしてもかまいません。

4.1 主なHTML要素

HTML内で利用する主な要素のうち、前章で扱わなかったものを紹介します¹⁾。

4.1.1 画像 : img

適当な画像ファイル (image.png) を用意してください。HelloWorld.html を次のように書き換えてウェブブラウザでリロードすると、画像が表示されます。

```
<html>
<body>
<p><img src='image.png' alt='サンプル画像'></img></p>
</body>
</html>
```

画像を提示するには **img 要素** を使います。提示する画像のファイル名は「src=」ファイル名」のように指定します（「src='http://www.example.net/image.jpg」のように、ウェブ上の画像を指定することもできます）。このように、開始タグの中で指定するものを **属性** といいます（img 要素の実体は **src 属性** で設定するというわけです）。属性の値は引用符（'」または「」）で囲みます。img 要素では、画像を表示できないブラウザなどのために、**alt 属性** を設定することになっています。

この img 要素のように、内容が無い場合には、終了タグを書く代わりに、「」と書くこともできます（つまり **開始タグの最後を「>」ではなく「/>」にします**）。

4.1.2 改行 : br

p 要素などの中で強制的に改行したいときに **br 要素** を使います。改行を
としている資料がたくさんありますが（HTMLならこれでよかったのです）、XHTML（後述）では

1) HTML 要素の全てを本書で扱うことはできません。JavaScript を使って絵を描くことができる **canvas 要素** など、便利なものが他にたくさんあります。

とするのが正しい書き方です。

4.1.3 整形済みテキスト : pre

概念

pre 要素中の改行や空白はそのまま表示されます。
そのため、pre 要素はソースコードなどを記述する際によく使われます。

実装

```
<pre>pre 要素中の改行や空白はそのまま表示されます。  
そのため、pre 要素はソースコードなどを記述する際によく使われます。</pre>
```

(ソースコードであることを示すには、code 要素を使います。)

4.1.4 引用 : blockquote, q

概念

テキストをまとめた引用文 (block-level quotation) として定義するには、blockquote 要素を使用する。(益子貴寛『Web 標準の教科書』)

実装

```
<blockquote>  
<p>テキストをまとめた引用文(block-level quotation)として定義するには、blockquote  
要素を使用する。(益子貴寛『Web標準の教科書』)</p>  
</blockquote>
```

概念

“比較的短い文章をインラインで引用する場合は q 要素を使用する” ことになっています。

実装

```
<p><q>比較的短い文章をインラインで引用する場合はq要素を使用する</q>ことになっていま  
す。</p>
```

(q 要素に対応したウェブブラウザなら引用符が自動的に付きます。)

4.1.5 強調 : em , strong

強調には em 要素と strong 要素があります。多くのブラウザでは em 要素は斜体で、strong 要素は太字で表示されます。より強く強調したいときに strong 要素を使うのが正しい使い方ですが、日本語の斜体は美しくないなので、日本語に限っては strong 要素のみを使